

令和5年度 市長記者会見 発言要旨

令和 6 年2月7日(水)開催分

< 開催時間 > 14:00~15:10

< 会場 > 庁議室(市役所本館3階)

< 会見案件 > 能登半島地震に対する支援
令和6年度当初予算案、令和5年度3月補正予算案及び令和6年度3月補正予算案の概要
北陸新幹線福井開業に伴う取組

< 出席者 > 市長、副市長、総務部長、財政部長

< 質疑応答 >

【記者】

12月の就任以降初めての当初予算編成となりましたが、今回市長が力点を置かれた分野は何か、また子供医療費の完全無償化ということで、子育て世帯の支援についてお考えを教えてください。

【市長】

これまでは、完全無料化にすると交付金にペナルティがありましたが、それが撤廃されたため、即座にやろうと思いましたが。

ただ、導入するには、システムを変えなければいけないので、時間がかかります。令和7年からなら導入できそうだと聞いていますので、なるべく早く進めていきたいと思っています。

今回の予算の力点ですが、12月23日の市長就任から予算の査定が始まる1月初旬までの間で、自分の想いを乗せた予算を組むのは難しかった。自分の想いはこれからの補正予算に載せていきたいです。

子ども医療費の無料化やこども家庭センターの開設、高齢者の生活支援コーディネーター、産業団地の造成については強調したポイントだと思います。

また、林業については、担い手不足という課題があり、何らかの手だてを組まなければいけません。スタートアップ事業によって、都会の若い人達に来ていただき、高齢化しているベテランの方々からいろんな知識を教わり、林業を志す人に定着していただきたいと思っています。

こども未来部については4月1日から発足させたいと思っていますが、議会の承認が必要ですので、議会に対する説明の準備をしています。

また、少し角度が違いますが、先日2月1日に、知事に対して県立大学の新しい学部を街中に持ってこられないかという要望をさせていただき、まだ公式な話としては聞いていませんが、私の想いとしてはアオッサに入ってもらいたいと

思っています。

【記者】

想いを載せられない部分は次の6月補正でというご発言がありましたが、まずは初年度として、当初予算には取り組みたい部分の何割程度が今計上されていて、次の6月にはどれくらい計上していきたいか、ボリューム感がわかればお願いします。

【市長】

何割という言い方はできませんが、ビジョンに掲げていることや選挙中に申し上げていたことを現場で議論していただき、よりよい方法を探す時間が6月補正や9月補正まであるので、議論を重ね、予算編成に結びつけたいと思います。

【記者】

100年に1度の大交流時代を開くということを訴えてきた一方で、この当初予算を見ると、新幹線や観光の面で、市が主体的に取り組む新規事業がないことに違和感があります。ここは6月補正に向けて取り組んでいくという方針なのでしょうか。

【市長】

新幹線の開業に向けては今までずっとやってきたことをしっかりとやり、観光に関するプロモーションもしていかなければならないと考えています。また、その先の中部縦貫自動車道の県内延伸は、物流の新しい動脈と位置付けられているので、農産物の販路拡大等に結びつくものだと思っています。

【記者】

新幹線開業効果の持続ということが県内のいろいろな所で訴えられていますが、そこに向けて今後の補正で盛り込みたい市長の方針があれば教えてください。

【市長】

それはこれから考えていきたいです。

【記者】

改めて新幹線開業イベントに向けての市長の意気込みをお聞きかせください。

【市長】

既に気合いが入っています。先日も東京で、食のイベントや水仙まつりに訪れた方に、福井のことを一生懸命PRしてきました。これからもしっかりとPRをして、1人でも多くの方に福井のことを印象づけたいと思っています。

「福井」が頭に残っていれば、北陸新幹線が開業したときに、行ってみようかなと思ってもらえるのではと考えています。大宮でもポスターやデジタルサイネージを掲示する予定ですが、ポスタージャックのような、ポスターを張りめぐらすことも考えています。本当に今がチャンスなので、少しでも多くの方に、福井市にきていただきたいと思っています。

【記者】

今回の予算は、開業後の予算になると思いますが、開業後に効果を続けるためのいろんな施策に対する思いも改めてお願いします。

【市長】

開業は1つの通過点だと思っているのですが、福井に足を運んでいただいた後にどう思っていたかの方が大事だと思っています。現在再開発事業の最中ですが、新しいまちの風景があり、養浩館のように非常に歴史がある場所もあり、福井の魅力をいろんな場面で提供していきたいと思っています。

職員のお出迎えも、福井市が率先しておもてなしする姿勢を見せるだけでなく、職員は駅周辺のことをよく知っているので、お客様が来られたときに、ご案内することには長けているだろうと思っています。

来ていただいて、良い印象を持っていただければ、また来たいと思っただけで考えているので、そういった循環ができればいいなと思っています。

【記者】

新幹線の予算編成に込められた思いを教えてください。

【市長】

繰り返しになりますが、新幹線で福井に来た方々にどう福井を印象づけるかが、勝負ではないかなと考えています。

福井には本当においしい食もあるし、綺麗な自然もあるし、深い歴史もある、そういったことを、来て見ていただく、味わっていただくことで、必ず福井に対していい印象を持っていただけると思っていますし、思っただけのようにしていきたいです。

ふくい Maas や開業後のイベント等、予算の中にも来ていただいた方にいい印象を持ってもらえるような内容のものもあります。

【記者】

いいイメージを持っていただくための予算編成になっているという認識でよろしいでしょうか。

【市長】

観光案内所もオープンし、ふくい Maas も始まるので、すべての予算が、そういうところに繋がっていると思っています。

【記者】

同じ質問で恐縮ですが、開業初年度に向けた意気込みを力強く簡潔にお願いいたします。

【市長】

わたしのビジョンを、スピード感を持って取り組んでいきたいと思っていますので、議会の同意が要りますが新しい組織を作っていきたいと思っています。

【記者】

今週にかけて県内ではアリーナのことがかなり話題になっていると思います。アリーナの予算が、当初の想定より40%程上回る105億円になるとのことで、市長としてどう受けとめられているか教えてください。

【市長】

当初の想定より上回ることは承知しております。基本的には県としっかりとタッグを組む中で、アリーナの構想が実現するようにしっかりと支援をしていきたいという思いは全く変わっておりません。

当初とは異なる部分については、議会の方々に私の想いも申し上げる中で、丁寧に説明をさせていただこうと思っています。具体的な支援については、県としっかりと協議しながら、考えて参りたいと思います。

【記者】

議会と相談しながら財政的な支援等も検討していきたいということでしょうか。

【市長】

端的に言うとそういうことです。

【記者】

アリーナの費用が当初よりかなり上回る中、変わらず応援していきたいと、そこまで思われる理由を一言お願いします。

【市長】

支援のあり方は、これから県とともにしっかりと協議していきますが、アリーナ構想の実現は、やはり大きな効果があると思っています。スポーツはまちや人を元気にし、にぎわいが生まれるため、若い人たちが楽しめるようなまちにつながる、中心的存在になると思っていますので、応援していきたいという気持ちをしっかりと持っています。

【記者】

北陸新幹線開業後の駅周辺の案内について、駅の東口に観光案内所も設けられる上での、職員の観光案内ということで、観光案内以上のどのような案内を求めて行う事業なのでしょうか。

【市長】

観光案内所は福井市だけではなく、県内一円のご案内を差し上げることになっているため、センター的な機能を持っていると思います。

観光交流センターの屋上にある恐竜の姿を見たら「福井だ」と思ってもらえるように、恐竜を配置しました。

それに加えてしっかりと応対することによって、市内も含めて県内の観光地を丁寧に説明し、行ってみようかなと思っただけのような形にしたいと思っています。

【記者】

アリーナ関連で、予算のハードルが高いといった問題もあり、どのように予算面でクリアしていくのか、見通しがありましたら教えていただきたいです。

【市長】

数的には私も承知していますが、それをどうやって支援に結びつけていくのかは、わたしの一存で決められる問題ではないので、議会に伝える中でご理解いただくようにしていきたいです。福井県としっかりと協議しながら、一緒に支援をしていきたいと思っています。

【記者】

今のアリーナの予算の捻出はどういうふう捻出する予定なのでしょうか。

【市長】

実際に予算が必要になるのは先の話ですが、それまでの間に財源の手当をしっかりと考える必要があると思っています。費用をすべて税金で補うという気持ちはないので、県としっかりと協議しながら、財源を見つけて対応しようと思っています。

【記者】

市の文化会館の今後はどうなるのでしょうか。

【市長】

文化会館は東公園に移るという話が当初ありましたが、財政難になったときに先送りいたしました。先送りした時に、今後は令和 8 年度、つまり第 8 次総合計画の最終年度に検討しましょうと決めました。現在は、フェニックスプラザがすでに文化会館と称していたり、県のハーモニーホールやコンベンション機能があるホテルも新しくでき上がったりすることから、従来の文化会館があったときから、環境が大分変わってきています。その時の社会の情勢や経済情勢、福井市の財政状況も大いに関係してくるので、今すぐに文化会館をどうするという回答を私は持ち合わせていないというのが、正直なところです。令和 8 年度を目途に検討に入る計画があるということしか今のところ申し上げられません。

【記者】

令和 8 年度までは事実上凍結状態のままになるということですか。

【市長】

いきなり計画を立てられるわけではないので令和 8 年までは、文化会館のような機能を持つ県内の施設を調査し、足りていない機能を探し、令和 8 年度に、計画を立てる際の、下調べをしっかりとやっていく必要があると思っています。

【記者】

今回も幾つかチャレンジみらい予算が挙がっていますが、市長として一押しのものであれば教えてください。

【市長】

県民衛星の活用といった福井県ならではの資産を活用するというのは非常に目の付けどころがいいなと思いました。これは林業水産課から出てきたものですが、大雨が降って山奥の林道が被害に遭い、上から状況を確認したいがドローンも飛ばせない…、といったときにすごくいいアイデアだなと思い、話を聞いていてワクワクしました。

【記者】

チャレンジ未来予算の制度の拡充を考えていると選挙戦の時から訴えていらっしゃいましたが、今後どのような制度にしていきたいか教えてください。

【市長】

きらきらっとするようなアイデアもありますし、私では考えつかないようなこともあります。自分たちで考えた予算が現実になる喜びを味わって欲しいし、人材育成にも繋がると思っています。制度の拡充としては、チャレンジみらい予算は単年度の予算なので、複数年に渡っての制度にすることも考えています。予算化までいかずとも、こういう夢があるということを知らせていただくことが、本当に大事なことだと思っています。それが福井市民にとっても幸せに繋がったり、福祉の発展に繋がったりすれば、非常に嬉しいと思っております。

【記者】

企業管理者の書類送検についての受けとめと、その後の処分などの手続きの状況を教えてください。

【市長】

まだ捜査中の段階ですので、今後の動きを見守りたいと思います。

【記者】

政治責任はどのように取るとお考えでしょうか。

【市長】

まだ捜査中なので、今後の警察の捜査を見守っていくということしか今は言いようがありません。

【記者】

関係した職員の処分についても捜査が終わるまでは動かせないのですか。

【市長】

処分は結果があって下すことであって、予見しながら、処分を決めることはありえないので、今はしっかりと推移を見守りたいと思います。今後、どのような結果が出て、それについてどう判断するのかは、その時にしないと決められないです。

【記者】

市からは動かないということなのでしょう。

【市長】

そういうことになります。